

救急救命士学科

科目名	保健・体育学Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	演習
【英】	Health & Physical Education			総時間数	30	単 位	1
学 年	2	学 期	通年	曜 日	木	時 限	3・4

担当教員	澁谷 和久	実務者経験	1992年～2002年 フィットネスクラブでフィットネスインストラクターとして指導を行う。2003年からスピードトレーニングコーチとして各種アスリートの指導を行う。
------	-------	-------	--

学習内容	就職試験において必要な体力要素の向上
到達目標	筋力、筋持久力、種発力、敏捷性、平衡性において20歳の上位の体力を目指す

準備学習 時間外学習	体調管理、復習トレーニング
使用教材	トレーニングマシン各種、マット、ダンベル、バランスボール
留意点 備 考	目的、注意点、予想される効果を把握する。

成績評価	前期、後期の体力テストで評価
------	----------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	ガイダンス 概要説明	測定に必要な胆力要素、体力要素別トレーニング方法
2	筋力、筋持久力	トレーニング効果の獲得速度、最大筋力、ピークパワーの発揮
3	瞬発力、敏捷性	最大筋パワー、プライオメトリック、クイックネストレーニング
4	前期テスト	測定、筋力・筋持久力・敏捷性・瞬発力・一般持久力
5	測定結果からの 目標設定	測定、筋力・筋持久力・敏捷性・瞬発力・一般持久力
6	全身持久力 筋持久力	LT値サーキットトレーニング
7	最大筋パワー ミドルパワー	リニアサーキット、ドットドリル、ハッピング、バウンディング
8	後期テスト	測定、筋力・筋持久力・敏捷性・瞬発力・一般持久力
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	総合基礎Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Basics			総時間数	30	単 位	総合基礎Ⅱ すべてで6
学 年	2	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	3・4

担当教員	植田 重幸	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	地方公務員採用試験の教養分野の基礎固めを行うとともに、実践問題演習への対応準備を整える。
到達目標	公務員採用試験の教養試験に対応できる基礎力を習得できる。

準備学習 時間外学習	学習した内容の復習が必要
使用教材	TAC判断推理・資料解釈 オープンセサミ①P118～207
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	ガイダンス	地方公務員採用試験 学習の進め方
2	数的推理分野 文章問題対応	和差算、平均算、集合算等
3	同 上 割合と比の利用	濃度算、仕事算、損益算等
4	同 上 速さに関する問題	速度算、通過算、流水算等
5	同 上 確率に関する問題①	場合の数、順列、組合せ等
6	同 上 確率に関する問題②	確率、期待値等 余事象の確率
7	同 上 平面図形の性質①	平面図形の基本性質、相似の利用等
8	同 上 平面図形の性質②	三角形の利用、円の性質等 円周角定理、接弦定理
9	同 上	記数法、対称式、数列の解法等 N進数、等差数列、階差数列
10	判断推理分野	命題と集合 対偶、三段論法、部分集合、全体集合
11	同 上	順序に関する問題
12	同 上	真偽に関する問題
13	同 上	対応関係に関する問題①
14	同 上	対応関係に関する問題②
15	同 上	方位・位置関係に関する問題
16	同 上	平面図形の利用に関する問題 立体図形の利用に関する問題
17	自然科学分野 物 理	エネルギー保存の法則 位置エネルギー 運動エネルギー
18	同 上	等速運動、等加速度運動 物体の落下運動、水平・上方投射、移動距離
19	自然科学分野 化 学	原子と分子、原子量、化学式の作り方 気体の状態、気体の性質
20	同 上	酸と塩基、中和反応、炭素化合物の燃焼反応 電気分解等
21	終講時試験	

救急救命士学科

科目名	救急医学概論総括			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Brushing up of Emergency Medicine of Traumas			総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	期間中随時	時 限	期間中随時

担当教員	森本 幸夫 奥元 隆昭 矢野 博之 廣野二美	実務者経験	40年の消防経験 (H4. 救急救命士) 18年の消防経験 (H8. 救急救命士) 3年の消防経験 (H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験 (H20. 看護師) 30年以上看護師としての臨床経験 (R1. 救急救命士)
------	---------------------------------	-------	--

学習内容	1 救急医学概論において救急救命士に関連する法令をより深く学ぶ。 2 全身及び局所の観察についてより深く学ぶ。 3 資器材の取扱い及び処置方法についてより深く学ぶ。
到達目標	1 救急救命士法及び関連する法令の重要部分を要約できる。 2 本科目において学んだことを活動に応用する。

準備学習 時間外学習	標準テキスト及び作成したハンドブックの閲読
使用教材	改定第9版または10版 救急救命士標準テキスト 出版社（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。
------	-----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	救急救命士法	救急救命士法について学ぶ。
2	関連する法令	消防法・医療法・医師法について学ぶ。
3	全身状態の観察	外見観察・初期評価・全身観察について学ぶ。
4	局所の観察	身体の各部位ごとに観察すべき項目と観察方法を学ぶ。
5	資器材の取扱い	資器材の取扱い方法について学ぶ。
6	処置方法	処置方法について学ぶ。
7	まとめ	
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	心肺停止			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Cardio-Pulmonary Arrest			総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火土	時 限	3・4

担当教員	呉 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医として実務経験あり 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	---

学習内容	心肺停止の判断や、病態生理と救急処置法などを中心に理解できる。
到達目標	心肺停止の概念、病態について理解し、救急蘇生法の最新のガイドラインを学習することで、救急活動におけるプロトコルを理解、習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト、ほか。
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	心肺停止総論	・定義、概念、疫学についての最新資料 ・救急活動基準に記載されている心肺停止に関する定義 ・早期、晩期死体現象（死後変化） ・ウツタイン様式について説明。
2	心肺停止に至る病態と原因	・不整脈、低心拍出量 ・心臓振盪について
3	心肺停止に至る病態と原因	・呼吸不全 ・乳幼児突然死症候群に関する知見 ・脳障害、急性中毒、電解質異常、電撃症など
4	心肺停止に至る病態と原因	・生体酸素状況 ・主な原因疾患について（5H5T） ・心電図分類
5	心肺蘇生中の病態	・胸骨圧迫による循環発生の機序 ・心肺蘇生中の冠循環と脳循環
6	心肺蘇生中の病態	・心肺蘇生中の呼吸循環（呼吸終末二酸化炭素分圧の重要性 ・胸骨圧迫の効果に影響する因子（血管収縮薬、陽圧換気など）
7	心拍再開後の病態	・虚血 ・再灌流障害 ・循環、神経機能の回復過程
8	心拍再開後の病態	・心拍再開後の経過に影響する因子（酸素、二酸化炭素、体温、血糖、痙攣など） ・ガイドライン2015記載内容
9	救急蘇生法	・蘇生ガイドラインの歴史 ・蘇生ガイドラインの成り立ち ・AHA、ERC、JRC
10	蘇生ガイドライン	・一次救命処置（市民用） ・ガイドライン2015
11	救急隊員による一次救命処置	・一次救命処置（医療用） ・ガイドライン2015 ・市民による一次救命処置についても講義
12	心肺蘇生に関する病院前救護のプロトコル	・病院前救護の心肺蘇生に関するプロトコル ・心停止アルゴリズム ・心肺機能停止対応業務 ムロトコル ・包括的指示下除細動プロトコル ・器具を用いた気道確保プロトコル ・薬 剤投与プロトコル ・VF/無脈性VTへの対応 ・無脈静電気活動/心静止への対応
13	医療機関での治療	・二次救命処置 ・特殊な二次救命処置（PCPS、開胸式心マッサージ） ・心拍再開後の集中治療
14	小児の救急蘇生法・乳児の救急蘇生法	・ガイドライン2015の内容も合わせて
15	まとめ	・最近の国家試験問題ほか

救急救命士学科

科目名	ショック・循環不全			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Shock・Circulatory Failure			総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	期間中随時	時 限	3・4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	心不全・ショックについて、 ①病態生理を理解する。②症状を観察して判断できる。③応急処置と搬送を適切にできる。 ④必要な治療を想定して医療機関を選定し、適確に報告できる。

準備学習 時間外学習	循環系の解剖・生理など既習の分野を復習する。テキストの用語の読み方や意味を調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	心不全	総論 病態生理
2	心不全	症候、種類、慢性心不全の急性増悪、現場活動
3	ショック	総論
4	ショック	循環血液量減少性ショック（1）
5	ショック	循環血液量減少性ショック（2）
6	ショック	心原性ショック 心外閉塞・拘束性ショック
7	ショック	血液分布異常性ショック
8	まとめ・テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	意識障害			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Conscious Disturbance			総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	期間中随時	時 限	3・4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	重症脳障害・意識障害について、 ①病態生理を理解する。②症状を観察して判断できる。③応急処置と搬送を適切にできる。 ④必要な治療を想定して医療機関を選定し、適確に報告できる。

準備学習 時間外学習	中枢神経系の解剖・生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	重症脳障害	総論・発症機序 一次性脳病変と二次性脳病変
2	重症脳障害	頭蓋内圧亢進
3	重症脳障害	脳ヘルニア
4	重症脳障害	特殊な意識障害
5	意識障害	意識障害の原因
6	意識障害	随伴症候
7	意識障害	意識障害の判断と現場活動
8	まとめ・テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	救急症候学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Emergency Symptomatology			総時間数	45	単 位	3
学 年	2	学 期	前期	曜 日	火土	時 限	3・4

担当教員	呉 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	--

学習内容	各種救急疾患でみられる症候を学習
到達目標	各種救急症候について、その機序・病態生理を理解し、観察法・評価法について理解し、適切な処置につなげられるようにする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト 改定第 10版
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	呼吸不全・呼吸困難	・呼吸不全の概念と病態生理 ・分類
2	呼吸不全・呼吸困難	・原因疾患と重症度緊急度の判断 ・処置
3	頭痛・痙攣	・発症機序と分類 ・原因疾患と随伴症候
4	頭痛・痙攣	・重症度緊急度の判断 ・処置
5	運動麻痺	・病態生理と分類 ・原因疾患と随伴症候
6	運動麻痺	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
7	めまい	・発症機序と分類 ・原因疾患と随伴症候
8	めまい	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
9	喀血	・定義と分類 ・原因疾患と随伴症候
10	喀血	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
11	吐下血	・定義と概念 ・原因疾患と随伴症候
12	吐下血	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
13	失神	・定義と概念 ・原因疾患と随伴症候
14	失神	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
15	胸痛・動悸	・定義と発症機序 ・原因疾患と随伴症候
16	胸痛・動悸	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
17	腹痛	・発症機序 ・原因疾患と随伴症候
18	腹痛	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
19	腰痛・背部痛	・定義と概念 ・原因疾患と随伴症候
20	腰痛・背部痛	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
21	体温上昇	・定義と発症機序 ・原因疾患と随伴症候
22	体温上昇	・重症度緊急度の判断 ・現場活動
23	まとめ	まとめと試験

救急救命士学科

科目名	救急症候・病態生理学総括			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Brushing up of Emergency Symptomatology & Pathophysiology			総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	前期	曜 日	期間中随時	時 限	1・2

担当教員	森本 幸夫 奥元 隆昭 矢野 博之 廣野二美	実務者経験	40年の消防経験 (H4. 救急救命士) 18年の消防経験 (H8. 救急救命士) 3年の消防経験 (H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験 (H20. 看護師) 30年以上看護師としての臨床経験 (R1. 救急救命士)
------	---------------------------------	-------	--

学習内容	1 救急疾患に関係の深い病態における機能的変化を捉えるとともに、傷病者本人が自覚する症状と他者の観察による徴候を学習する。 2 疾病傷病者に対する理論的で確実な対応を可能とするよう学習する。
到達目標	1 救急病態生理学のうち標準テキストに記載されている5項目について各項目の知識を身につける。 2 救急症候学のうち標準テキストに記載されている14項目について各項目知識を身につける。 3 救急症候・病態生理学で学んだ知識を活動時に応用する。

準備学習 時間外学習	標準テキスト及びハンドブックの閲読
使用教材	改定第10版 救急救命士標準テキスト 出版社（へるす出版）
留意点 備 考	救急救命士標準テキストの範囲を復習。

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。
------	-----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】		
1	救急病態生理学	【呼吸不全総括】	救急救命士標準テキストP591～P597
2	救急病態生理学	【心不全総括】	救急救命士標準テキストP598～P603
3	救急病態生理学	【ショック総括】	救急救命士標準テキストP604～P615
4	救急病態生理学	【重症脳障害総括】	救急救命士標準テキストP616～P623
5	救急病態生理学	【心肺停止総括】	救急救命士標準テキストP624～P633
6	救急症候学	【意識障害、頭痛総括】	救急救命士標準テキストP636～P647
7	救急症候学	【痙攣、運動麻痺総括】	救急救命士標準テキストP648～P659
8	救急症候学	【めまい、呼吸困難総括】	救急救命士標準テキストP660～P670
9	救急症候学	【喀血、失神総括】	救急救命士標準テキストP671～P679
10	救急症候学	【胸痛、動悸総括】	救急救命士標準テキストP680～P688
11	救急症候学	【腹痛、吐血・下血総括】	救急救命士標準テキストP689～P698
12	救急症候学	【腰痛・背部痛、体温上昇総括】	救急救命士標準テキストP699～P707
13	まとめ	全体を捉え、重要部分を再度説明する。	
14	まとめ	全体を捉え、重要部分を再度説明する。	
15	試験		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅰ（神経系疾患）			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Neural Diseases			総時間数	17	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	期間中随時	時 限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①神経系の構造と機能を理解する。②神経系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな神経系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな神経系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	神経系の解剖・生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	総論（１）	中枢神経系、末梢神経系、自律神経系、脳の血管 疫学と救急医療における意義
2	総論（２）	神経系疾患の主要症候 基本的対応
3	脳血管障害（１）	脳血管障害の概要 くも膜下出血
4	脳血管障害（２）	脳出血
5	脳血管障害（３）	脳梗塞、一過性脳虚血発作 脳動静脈奇形、もやもや病
6	中枢神経系の感染症	髄膜炎、脳炎、脳膿瘍
7	その他の中枢神経疾患	てんかん、脳腫瘍
8	その他の中枢神経疾患 末梢神経疾患	変性疾患、脱髄疾患 ギランバレー症候群、糖尿病性ニューロパチー
9	まとめと補足 テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅰ（感覚器口腔系疾患）			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Sensory & Oral Diseases			総時間数	13	単 位	神経系と合わせて1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	期間中随時	時 限	3.4

担当教員	吉岡美依子 三本 珠未 横田 祐介 橋本 典子	実務者経験	吉岡美依子：眼科診療及び治療に6年携わる 三本 珠未：眼科診療及び治療に5年携わる 横田 祐介：口腔外科診療及び治療に12年携わる 橋本 典子：耳鼻咽喉科診療及び治療に27年携わる
------	----------------------------------	-------	---

学習内容	感覚器口腔分野の解剖を理解したうえで主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な感覚器系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	毎回の講義後、復習をしておく
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	眼の主要症候と救急疾患	眼科領域の解剖 視覚障害と各眼科的救急疾患の理解を深める
2	〃	急性緑内障発作、網膜中心動脈閉塞症、網膜剥離、結膜炎・角膜炎、白内障、視神経炎
3	耳鼻咽喉科	聴覚器の解剖
4	〃	末梢性めまい、炎症（中耳炎、鼓膜穿孔） 鼻の疾患（鼻出血、急性副鼻腔炎）
5	顎・口腔の解剖および、 代表疾患	歯・口腔系の構造を理解した上で、疾患について理解する。 救急現場における対処法について理解する。
6	口腔外科学および、口腔 外傷対処法	〃
7	試験	
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅱ(呼吸器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Respiratory Diseases			総時間数	16	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	期間中随時	時 限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①呼吸器系の構造と機能を理解する。②呼吸障害について観察して評価できる。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな呼吸器系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな呼吸器系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	呼吸系の解剖・生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	疾患の理解に必要な基礎知識	呼吸系の構造と機能、疾病の背景因子 換気、ガス交換、血液による酸素運搬
2	呼吸についての病態生理	酸素欠乏、換気の障害(気道と呼吸運動)、ガス交換の障害(肺胞と肺間質)、 酸素運搬の障害(ヘモグロビンと血流)、酸素利用の障害
3	呼吸器系疾患の観察と判断	疫学、観察、症状、重症度と緊急度、 応急処置と搬送、医療機関の選定
4	上気道の疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
5	下気道と肺胞の疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
6	感染症	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
7	胸膜疾患 その他の呼吸器疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
8	まとめ と テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅱ(循環器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Circulatory Diseases			総時間数	16	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	期間中随時	時 限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①循環系の構造と機能を理解する。②循環系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな循環器疾患について病態を理解する。 ⑤おもな循環器疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習	解剖・生理など既習の関連分野を復習する。 テキストの用語について調べておく。
時間外学習	受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	総論	循環系の構造、心周期、ポンプ機能 疫学、主要症候、基本的対応
2	動脈硬化 心不全 高血圧	動脈硬化の概念と病態 心不全の病態生理と症候 高血圧症、高血圧緊急症
3	血管疾患	急性大動脈解離、大動脈瘤、 急性四肢動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症 深部静脈血栓症
4	虚血性心疾患	概念、急性冠症候群、急性心筋梗塞、 不安定狭心症、安定狭心症
5	心筋疾患 心膜疾患 その他の心疾患	心筋症、心筋炎 心タンポナーデ、急性心膜炎 心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患
6	心電図の解説	心電図の基礎 頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、その他の不整脈 心筋の虚血性変化、その他の心電図異常
7	不整脈	不整脈とは、心臓突然死、心室細動、心室頻拍、 心房細動、洞頻脈、房室ブロック、 Q T延長症候群、WPW症候群
8	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
9		
10		
11		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅲ(消化器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Digestive Diseases			総時間数	16	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金	時 限	3・4

担当教員	天野 美緒	実務者経験	2009年度より医師として従事し、2011年度より消化器内科の勤務医として診療にあたっている。
------	-------	-------	---

学習内容	消化器疾患の基礎および多彩な臓器の多彩な病態を学んで理解する。
到達目標	消化器疾患の基礎を学び、ある程度の疾患の鑑別および重症度の判断ができるようになり、臨床の場に応用できるレベルになる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	試験にて評価する
------	----------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	総論	消化器疾患について
2	総論	症候について
3	消化器系疾患	上部消化管疾患について
4	消化器系疾患	下部消化管疾患について
5	消化器系疾患	肝疾患について
6	消化器系疾患	胆膵疾患について
7	まとめ	まとめ、復習
8	試験	試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅲ（泌尿生殖器系疾患）			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Uro-Genital Diseases			総時間数	9	単 位	消化器疾患と合わせて1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	金	時 限	3・4

担当教員	辻畑 正雄	実務者経験	医師、大学病院、市中病院等で30年泌尿器科で診療・治療に携わる
------	-------	-------	---------------------------------

学習内容	
到達目標	泌尿器・男性生殖器領域の解剖・生理について理解し、同領域における救急疾患を中心に学習する

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社（へるす出版） スライドなど
留意点 備 考	

成績評価	試験を行う
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	泌尿器、生殖器の解剖生理	泌尿器・男性生殖器の解剖および生理
2	泌尿器疾患	腎不全および尿路結石症について
3	泌尿器生殖器疾患	前立腺肥大症、尿路感染症、尿路性器癌
4	泌尿器の外傷	救急外傷について
5	試験	試験
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅳ(内分泌代謝栄養系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Humoral, Metabolic & Nutritious Diseases			総時間数	16	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	期間中随時	時 限	3・4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①内分泌系の構造と機能を理解する。②内分泌・代謝・栄養系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。 ④おもな内分泌・代謝・栄養系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな内分泌・代謝・栄養系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	解剖・生理など既習の関連分野を復習する。 テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	内分泌系疾患	内分泌系の解剖生理学 代謝・内分泌・栄養系疾患の総論
2	内分泌系疾患	内分泌系疾患
3	栄養障害	栄養、栄養障害、低栄養・飢餓、肥満・栄養過多、 ビタミン欠乏、ビタミン過剰
4	糖尿病	病態、分類、合併症、治療
5	糖尿病の関連病態	低血糖 糖尿病ケトアシドーシス 高浸透圧高血糖症候群
6	代謝障害	糖質代謝の障害、脂質代謝の異常、 蛋白質代謝の異常
7	水・電解質の異常 酸塩基平衡の異常	体液の異常、脱水、水分過剰 電解質の異常 酸塩基平衡の異常
8	まとめ と テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
9		
10		
11		
12		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅳ(血液免疫系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Blood & Immune Diseases			総時間数	16	単 位	内分泌代謝免疫系と合わせて1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月	時 限	3・4

担当教員	谷村 博久	実務者経験	1986年から大阪大学医学部第一内科勤務、1990年から大阪警察病院内科勤務、2003年から大阪回生病院内科勤務、現在、副院長、内科統括部長、消化器センター長兼務。
------	-------	-------	--

学習内容	血液・体液の解剖と生理を理解した上で血液免疫疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを学ぶ。
到達目標	血液免疫疾患の主な症候をあげ、それぞれについて概要を説明できる様になる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	血液免疫総論	救急医療における意義、血液・免疫系疾患の主要症候
2	〃	1) 出血傾向/2) リンパ節腫脹/3) 肝脾腫、緊急度・重症度の判断、応急処置と搬送、医療機関選定
3	血液各論	貧血、血小板減少症、白血病、血友病、紫斑病、播種性血管内凝固症候群(DIC)
4	〃	顆粒球減少症、止血に影響を与える薬剤(経口抗凝固薬/2) 抗血小板薬)
5	免疫各論	1. アナフィラキシー、1) 定義・概念/2) 疫学/3) 原因/4) 病態/5) 症候/6) 現場活動/7) 医療機関での診療/8) 予後
6	〃	2. アレルギー性疾患、1) 薬物アレルギー/2) 食物アレルギー/3) 血清病 3. 自己免疫疾患、4. 膠原病
7	まとめ、演習	重要事項の再確認
8	テスト	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学Ⅴ(筋骨格・皮膚系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Musculo-Skeletal Diseases・Skin Diseases			総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水	時 限	4

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得、2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	--

学習内容	筋・骨格系の解剖・生理と筋骨格系疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。 皮膚の構造と機能と皮膚疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。
到達目標	筋・骨格系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。 皮膚系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト」(へるす出版)
留意点 備 考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	筋骨格系疾患 1	筋骨格系疾患の総論、主要症候、基本的対応 の 理解 と 習得
2	筋骨格系疾患 2	脊椎疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
3	筋骨格系疾患 3	関節疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
4	筋骨格系疾患 4	筋疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
5	皮膚系疾患 1	皮膚系疾患の総論、主要症候、基本的対応 の 理解 と 習得
6	皮膚系疾患 2	皮膚・軟部組織の感染症 の 原因 病態 症状 診断 治療法の 理解 と 習得
7	皮膚系疾患 3	皮膚アレルギー疾患 の 原因 病態 症状 診断 治療法 の 理解 と 習得
8	終講義試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	産婦人科救急			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Obstetric & Gynecologic Emergencies			総時間数	16	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	水月	時 限	1・2・3・4

担当教員	藤田 太輔	実務者経験	【藤田太輔】 2001年4月より現在まで大阪医科大学産婦人科教室に所属し、 産婦人科診療および治療を行う。 2010年より大阪府消防学校 専科教育救急科で産婦人科・周産期について年2回 (計8時間) 講義を行っている。
------	-------	-------	---

学習内容	産婦人科疾患・周産期疾患の特殊性と症状・評価・鑑別・救急処置・分娩の介助
到達目標	救急救命士として必要な、産婦人科救急への理解、車内分娩の対応など産婦人科領域を習得できる

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社(へるす出版)
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験(筆記)
------	-----------

コマ数	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	正常妊娠	正常妊娠について 1. 受精と着床, 2. 胎児, 3. 胎児付属物, 4. 妊娠週数, 5. 妊娠による母体の変化
2	異常妊娠	1. 妊娠初期の異常 1) 流産/2) 異所性妊娠(子宮外妊娠)/3) 胞状奇胎 1) 切迫早産。前期破水/2) 妊娠高血圧症候群/3) 子癇/4) HELLP症候群5) 前置胎盤/6) 常位胎盤早期剥離/7) 子宮内胎児死亡
3	正常分娩 異常分娩	正常分娩の経過について、分娩介助について
4	女性生殖器 疾患	1. 骨盤内感染症 2. 卵巣嚢腫茎捻転 3. 子宮筋腫 4. 子宮内膜症 5. 卵巣出血
5	新生児の観察 分娩のビデオ実習	1) 気道確保・呼吸促進/2) 踏帯切断/3) 新生児仮死/4) 新生児救急蘇生法/5) 新生児の搬送法/6) 搬送に必要な備品 3. 医療機関選定
6	分娩実習	分娩シミュレータを使用して分娩介助について
7	近畿救急医学研究会 第152回救急隊員部会講演	院外分娩についての対応について
8	まとめと試験	質疑応答、まとめ 終講義試験の実施

救急救命士学科

科目名	精神科救急			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Psychiatric Disorder			総時間数	16	単 位	1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月	時 限	1・2

担当教員	堺 景子	実務者経験	1991年5月より現在まで大学附属病院、精神科病院等で精神科医として勤務
------	------	-------	--------------------------------------

学習内容	救急の現場でよくみられる代表的な精神疾患について、症状、診断、治療について学ぶ。 向精神薬の作用や副作用についても学ぶ。
到達目標	症候から精神疾患の鑑別診断ができる。学んだ精神疾患の症状や向精神薬の副作用等について理解し、実際に救急の現場で活用でき、かつ救急救命士国家試験に対応できるレベルに達する。

準備学習 時間外学習	教科書で予習する
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版（へるす出版）
留意点 備 考	講義時に配布したプリントを復習しておく。

成績評価	終講義試験、100%で評価する。
------	------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	精神医学概論 1	精神科医療の歴史と現状／精神疾患の診断 精神科医療の歴史と現状について説明ができる。／精神疾患の診断分類について説明ができる。
2	精神医学概論 2	精神症状／法律 精神症状について説明ができる。／精神保健福祉法について説明ができる。
3	精神医学概論 3	精神症状の観察と対応 攻撃性・暴力、自殺未遂例への対応について説明ができる。
4	精神医学各論 1	精神疾患 1 統合失調症、気分障害の病態及び治療について説明ができる。
5	精神医学各論 2	精神疾患 2 器質性精神障害、精神作用物質による精神および行動の障害等の病態及び治療について説明ができる。
6	精神医学各論 3	精神疾患 3／薬物治療 摂食障害、パーソナリティ障害等の病態及び治療について説明ができる。／薬物治療と薬の副作用について説明ができる。
7	まとめ	1－6回の講義で学んだことの復習 国家試験の問題等を用いて復習し、知識の定着をはかる。
8	試験	後期試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	疾病救急医学総括			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Brushing up of Emergency Medicine of Diseases			総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	期間中随時

担当教員	森本 幸夫 奥元 隆昭 矢野 博之 廣野二美	実務者経験	40年の消防経験(H4. 救急救命士) 18年の消防経験(H8. 救急救命士) 3年の消防経験(H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 30年以上看護師としての臨床経験(R1. 救急救命士)
------	---------------------------------	-------	---

学習内容	1 救急疾患に関係の深い各疾患の病態と症候を学習する。 2 救急疾患に関係の深い各疾患における観察と判断を学習する。 3 救急疾患に関係の深い各疾患における搬送時のポイントを学習する。
到達目標	1 疾病救急医学のうち標準テキストに記載されている小児・高齢者を除いた13項目について各項目の知識を身につける。 2 疾病救急医学で学んだ知識を活動時に応用する。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士 標準テキスト第10版（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。
------	-----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	疾病救急医学	【神経系疾患総括】
2	疾病救急医学	【血液・免疫系疾患総括】
3	疾病救急医学	【代謝・内分泌・栄養疾患総括】
4	疾病救急医学	【呼吸器系疾患総括】
5	疾病救急医学	【循環系疾患総括】
6	疾病救急医学	【消化系疾患総括】
7	疾病救急医学	【泌尿・生殖器疾患総括】
8	疾病救急医学	【筋・骨格系疾患総括】
9	疾病救急医学	【皮膚系疾患総括】
10	疾病救急医学	【眼・耳・鼻の疾患総括】
11	疾病救急医学	【感染症総括】
12	疾病救急医学	【妊娠・分娩と救急疾患総括】
13	疾病救急医学	【精神障害総括】
14	まとめ	
15	試験	

救急救命士学科

科目名	一般外傷			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Trauma			総時間数	45	単 位	3
学 年	2	学 期	通年	曜 日	火土	時 限	3・4

担当教員	呉 教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医として実務経験あり 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会
------	------	-------	---

学習内容	各外傷についての受傷機転、発生機序、病態、症状、評価・鑑別、予後や救急処置・搬送方法等について理解できる。
到達目標	外傷の受傷機転別に受傷形態、外傷分類、病態生理を理解することで外傷の現場活動のポイントを整理する。 各種外傷（頭部外傷、顔面頸部外傷、脊椎脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷、骨盤外傷、四肢外傷、皮膚軟部組織外傷、小児高齢者妊婦の外傷）別に、疫学、受傷機転、病態生理、現場活動における注意点につき学習する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト、ほか。
留意点 備 考	

成績評価	筆記試験
------	------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
2	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
3	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
4	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
5	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の生体反応につき学習する。
6	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点・注意点につき学習する。
7	外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点
8	外傷の現場活動	・注意点につき学習する。
9	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
10	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
11	顔面・頸部外傷	顔面・頸部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
12	まとめ・試験	まとめ（国家試験問題他）と終講義試験
13	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
14	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
15	胸部外傷	胸部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
16	胸部外傷	胸部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
17	腹部外傷	腹部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
18	腹部外傷	腹部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
19	骨盤外傷	骨盤外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
20	骨盤外傷	骨盤外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
21	四肢外傷、皮膚・軟部組織外傷	四肢外傷・皮膚軟部組織外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。 同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
22	小児・高齢者・妊婦の外傷、	小児・高齢者・妊婦の外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
23	まとめ・試験	まとめと終講義試験

救急救命士学科

科目名	特殊外傷(熱傷電撃症化学損傷・異物縊頸刺咬傷)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Burn・Foreign Body, Hanging, Sting & Bite			総時間数	16	単 位	熱傷電撃症化学損傷と合わせて1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	水	時 限	4

担当教員	小笠 智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。
------	-------	-------	---

学習内容	異物縊頸刺咬傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法 などを中心に学習する。熱傷電撃症化学損傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法 などを中心に学習する。
到達目標	異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。熱傷電撃症化学損傷異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト」(へるす出版)
留意点 備 考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。
------	------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	異物・縊頸・刺咬傷 1	気道異物・消化管異物の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得
2	異物・縊頸・刺咬傷 2	耳目鼻性器の異物・縊頸の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得
3	異物・縊頸・刺咬傷 3	哺乳類・爬虫類による咬傷の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得
4	異物・縊頸・刺咬傷 4	節足動物・海洋生物による刺咬傷の原因 病態 症状 診断 治療法の理解と習得
5	熱傷電撃症化学損傷 1	熱傷の病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置の理解と習得
6	熱傷電撃症化学損傷 2	化学損傷の病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置の理解と習得
7	熱傷電撃症化学損傷 3	電撃症・雷撃症の病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置の理解と習得
8	特殊外傷	試 験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

救急救命士学科

科目名	環境障害・急性中毒学(環境障害)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Environmental Diseases			総時間数	12	単 位	急性中毒学と合わせて1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	期間中随時	時 限	3・4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する
------	--------	-------	------------------

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①各傷病について原因と病態生理を理解する。 ②各傷病について適切に判断して処置できる。 ③必要な診療を理解し、適切な医療機関に救急搬送できる。

準備学習 時間外学習	解剖・生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。受講後に復習と自己学習をする。 練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	熱中症	疫学、病態生理
2	熱中症	観察と対応
3	偶発性低体温症 凍傷	病態生理、観察と処置 発症機序と病態生理、観察と対応
4	溺水 減圧障害	病態生理、観察と処置 発症機序と病態生理、観察と対応
5	高山病 酸素欠乏症 紫外線障害	発症機序と病態生理、観察と対応
6	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。
7		
8		
9		
10		
11		

救急救命士学科

科目名	環境障害・急性中毒学(急性中毒学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Poisoning			総時間数	12	単 位	環境障害と合わせて1
学 年	2	学 期	前期	曜 日	月	時 限	3.4

担当教員	横山 恵一	実務者経験	医師、20年間大学病院で救急医療に携わる
------	-------	-------	----------------------

学習内容	中毒の病態、症状、評価、鑑別、予後や救急処置、搬送方法を学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な 急性中毒について理解し、適切な対応について説明できる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト改定第10版
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験
------	-------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	中毒総論	定義、疫学、分類、中毒物質 吸収・代謝・排泄、中毒作用、中毒の判断
2	中毒総論	中毒物質の推定、安全確保 中毒物質等の無保存、緊急度・重症度の判断 医療機関での診療、中毒情報センター
3	中毒各論	医薬品中毒、乱用薬物、農薬中毒
4	中毒各論	工業用品中毒 ガス中毒
5	中毒各論	急性エタノール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒 乱用薬物、現場対応と搬送
6	まとめと試験	
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

救急救命士学科

科目名	外傷救急医学総括			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Brushing up of Emergency Medicine of Traumas			総時間数	30	単 位	2
学 年	2	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	1・2

担当教員	森本 幸夫 奥元 隆昭 矢野 博之 廣野 二美	実務者経験	40年の消防経験(H4. 救急救命士) 18年の消防経験(H8. 救急救命士) 3年の消防経験(H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 30年以上看護師としての臨床経験(R1. 救急救命士)
------	----------------------------------	-------	---

学習内容	1 外傷救急における総論・病態生理・現場活動要領を学習する。 2 外傷救急における各身体部位ごとの外傷を学習する。 3 特殊外傷・環境障害・中毒について学習する。
到達目標	1 外傷救急医学のうち標準テキストに記載されている身体部位ごとの9項目について各項目の知識を身につける。 2 外傷救急医学で学んだ知識を外傷活動要領にリンクさせる。 3 標準テキストに記載されている中毒46項目について知識を身につける。

準備学習 時間外学習	標準テキスト及び作成したハンドブックの閲読
使用教材	救急救命士 標準テキスト第10版（へるす出版）
留意点 備 考	

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。
------	-----------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	外傷救急医学	【外傷総論】
2	外傷救急医学	【病態生理・活動】
3	外傷救急医学	【頭部外傷・顔面・頸部外傷総括】
4	外傷救急医学	【脊椎脊髄外傷・胸部外傷総括】
5	外傷救急医学	【胸部・腹部外傷総括】
6	外傷救急医学	【骨盤外傷・四肢外傷総括】
7	外傷救急医学	【皮膚・小児・高齢者外傷総括】
8	外傷救急医学	【熱傷・化学損傷・電撃症総括】
9	急性中毒学・環境障害	【中毒総論】
10	急性中毒学・環境障害	【中毒各論総括】
11	急性中毒学・環境障害	【異物・溺水・熱中症総括】
12	急性中毒学・環境障害	【偶発性低体温・放射線障害総括】
13	急性中毒学・環境障害	【その他環境障害総括】
14	まとめ	
15	試験	

救急救命士学科

科目名	シミュレーション実習Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	315	単 位	7
学 年	2	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	1・2・3・4

担当教員	森本 幸夫 奥元 隆昭 矢野 博之 廣野 二美	実務者経験	40年の消防経験(H4. 救急救命士) 18年の消防経験(H8. 救急救命士) 3年の消防経験(H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 30年以上看護師としての臨床経験(R1. 救急救命士)
------	----------------------------------	-------	---

学習内容	基本を応用し、現場活動を学ぶ。
到達目標	外傷処置、特定行為の実習を学び、想定訓練に活かせる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社（へるす出版） 、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	JPTEC、救急救命処置Ⅱはテストを実施する。
------	-------------------------

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省
2	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省
3	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省脳神経解剖復習含む
4	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省脳神経解剖復習含む
5	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション 窒息、外傷、意識障害等 グループ演習
6	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション 窒息、外傷、意識障害等 グループ演習
7	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション 窒息、外傷、意識障害等 グループ演習
8	1年実習 復習	脳梗塞の種類と病態、前駆症状など復習想定患者対応シミュレーション (3事例 3グループ)
9	気道の確保 声門上ディバイス	* 声門上ディバイス(ラリゲアルマスク、ラリゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用法説明とグループ実習
10	気道の確保 声門上ディバイス	* 声門上ディバイス(ラリゲアルマスク、ラリゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用法説明とグループ実習
11	声門上ディバイスによる対応	* 声門上ディバイス(ラリゲアルマスク、ラリゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用法説明とグループ実習
12	声門上ディバイスによる対応	* 声門上ディバイス(ラリゲアルマスク、ラリゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用法説明とグループ実習
13	声門上ディバイスによる対応	事例として流れを通じ、一つ一つの基本技術も確実にする
14	声門上ディバイスによる対応	事例として流れを通じ、一つ一つの基本技術も確実にする
15	窒息患者(声門上ディバイス対応)	出血によるホルモン分泌反応、圧挫症候群、出血量推定、脳ヘルニア所見と各種の脳ヘルニア、硬膜下・硬膜外血腫、脊髄不全損傷のタイプ、四肢の急性阻血症状など
16	窒息患者(声門上ディバイス対応)	出血によるホルモン分泌反応、圧挫症候群、出血量推定、脳ヘルニア所見と各種の脳ヘルニア、硬膜下・硬膜外血腫、脊髄不全損傷のタイプ、四肢の急性阻血症状など
17	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習

18	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
19	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
20	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
21	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
22	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
23	窒息患者(声門上ディバイス使用)	スピードを求めず確実性。
24	窒息患者(声門上ディバイス使用)	スピードを求めず確実性。
25	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
26	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
27	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
28	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
29	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
30	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
31	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
32	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
33	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
34	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
35	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
36	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
37	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
38	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
39	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
40	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
41	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
42	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
43	気管挿管	気管挿管講義
44	気管挿管	気管挿管講義
45	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
46	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
47	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル

48	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
49	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
50	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
51	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
52	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
53	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
54	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
55	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
56	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
57	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル試験
58	窒息患者(声門上デバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル試験
59	静脈路確保	静脈路確保の目的資器材一式の取り扱い説明
60	静脈路確保	静脈路確保の目的資器材一式の取り扱い説明
61	気管挿管	気管挿管実技
62	気管挿管	気管挿管実技
63	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認 模擬血管穿刺の実施
64	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認 模擬血管穿刺の実施
65	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認模擬血管穿刺の実施
66	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認模擬血管穿刺の実施
67	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
68	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
69	静脈路確保	輸液作成から静脈路確保の手順 配布輸液作成から模擬血管穿刺の実施
70	静脈路確保	輸液作成から静脈路確保の手順 配布輸液作成から模擬血管穿刺の実施
71	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
72	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
73	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
74	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
75	静脈路確保デバイスJPTEC	反復訓練
76	静脈路確保デバイスJPTEC	反復訓練
77	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練

78	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
79	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
80	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
81	徽章授与式演習	徽章授与式演習の担当決定各担当グループで演習
82	徽章授与式演習	徽章授与式演習の担当決定各担当グループで演習
83	徽章授与式演習	各グループで演習
84	徽章授与式演習	各グループで演習
85	府立消防学校 見学	大阪府立消防学校第104回初任教育実科査閲見学(9時から11時)
86	府立消防学校 見学	大阪府立消防学校第104回初任教育実科査閲見学(9時から11時)
87	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
88	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
89	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
90	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
91	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
92	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
93	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
94	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
95	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
96	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
97	特定行為	静脈路確保実技テスト
98	特定行為	静脈路確保実技テスト
99	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
100	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
101	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
102	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
103	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
104	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
105	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
106	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
107	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡

108	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
109	気管挿管	気管挿管実技、試験
110	気管挿管	気管挿管実技、試験
111	徽章授与式演習	淀川河川敷にて礼式訓練
112	徽章授与式演習	淀川河川敷にて礼式訓練
113	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
114	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
115	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
116	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
117	演習	徽章授与式訓練
118	演習	徽章授与式訓練
119	観察	血圧測定・脈拍高研人形での観察ストレッチャー使用方法
120	観察	血圧測定・脈拍高研人形での観察ストレッチャー使用方法
121	基礎技術復習	ストレッチャーの扱いバイタルサイン測定(脈拍、頸静脈怒張、呼吸音、心音、血圧)
122	基礎技術復習	ストレッチャーの扱いバイタルサイン測定(脈拍、頸静脈怒張、呼吸音、心音、血圧)
123	基礎技術復習	バイタルサイン(血圧測定)三角巾ローブ
124	基礎技術復習	バイタルサイン(血圧測定)三角巾ローブ
125	基礎技術復習	バイタルサイン(血圧測定)三角巾ローブ
126	基礎技術復習	バイタルサイン(血圧測定)三角巾ローブ
127	基礎技術復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレッチャー扱い、
128	基礎技術復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレッチャー扱い、
129	基礎技術復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレッチャー扱い、
130	基礎技術復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレッチャー扱い、
131	基礎技術復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、血糖測定
132	基礎技術復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、血糖測定
133	POT	バイタル～病態を読み取る
134	POT	バイタル～病態を読み取る
135	POT	バイタル～病態を読み取る
136	POT	バイタル～病態を読み取る
137	解剖実習	大阪大学へ解剖実習

138	実習前研修	オリエンテーション、記録(チェックリスト・評価表・薬剤投与記録・実習記録)
139	実習前研修	各病院の説明(前年度同施設実習生代表が入ってのグループミーティング)
140	実習前研修	輸液について、ドレーン管理について
141	実習前研修	患者搬入・初療室の流れについて、初療室・ICUの1日の流れについて、重症患者の観察、救急での検査・器材・薬品、救急カートなど
142	実習前研修	実習の計画(初日の実習目標・実習項目を挙げ、それについての予習)記録について考察の考え方
143	実習前研修	十二誘導心電図の測定法
144	実習前研修	気管内吸引・気管チューブの固定、カフ圧の理解・測定など
145	実習前研修	フィジカルアセスメント
146	実習前研修	静脈ルート(血管の選択、皮膚消毒、穿刺、固定法など)血糖測定 静脈ルート(ルート作成、三方活栓の使用法・エピネフリン・ブドウ糖溶液の投与法など)
147	実習前研修	感染予防(病院の清潔管理・清潔操作・手洗い方法、手指消毒法、)時間が余れば、ガウンテクニック・グローブ着脱など
148	実習前研修	車椅子の使用法、ベットでの患者搬送(時間があれば、患者移動法、シーツ交換、清拭、体位交換)
149	実習前研修	集中治療における酸素療法の選択(高、低流量システム)
150	実習前研修	〃
151	実習前研修	血液浄化療法の特徴、実際の使用法について
152	実習前研修	〃
153	実習前研修	体外循環療法の特徴、実際の使用法について
154	実習前研修	〃
155	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
156	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
157	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
158	病院実習レポート	病院実習のレポート作成

救急救命士学科

科目名	救急用自動車・同乗実習Ⅰ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Ambulance Training			総時間数	45	単 位	1
学 年	2	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	1・2・3・4

担当教員	森本 幸夫 奥元 隆昭 矢野 博之 廣野 二美	実務者経験	40年の消防経験(H4. 救急救命士) 18年の消防経験(H8. 救急救命士) 3年の消防経験(H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験(H20. 看護師) 30年以上看護師としての臨床経験(R1. 救急救命士)
------	----------------------------------	-------	---

学習内容	学内にある救急自動車を使用し、訓練する。
到達目標	救急自動車内での対応ができる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士 標準テキスト 第10版 出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	
------	--

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	搬送法	メインストレッチャーの曳行
2	搬送法	メインストレッチャーの曳行
3	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
4	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
5	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
6	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
7	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
8	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
9	観察	救急自動車内での観察
10	観察	救急自動車内での観察
11	処置	救急自動車内での処置
12	処置	救急自動車内での処置
13	処置	救急自動車内での処置
14	処置	救急自動車内での処置
15	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
16	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
17	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
18	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
19	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
20	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
21	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
22	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
23	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

救急救命士学科

科目名	総合救急医療Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine			総時間数	15	単 位	1
学 年	2	学 期	通年	曜 日	期間中随時	時 限	1・2・3・4

担当教員	森本 幸夫 奥元 隆昭 矢野 博之 廣野 二美	実務者経験	40年の消防経験 (H4. 救急救命士) 18年の消防経験 (H8. 救急救命士) 3年の消防経験 (H10. 救急救命士) その後、看護師として12年の臨床経験 (H20. 看護師) 30年以上看護師としての臨床経験 (R1. 救急救命士)
------	----------------------------------	-------	--

学習内容	これまでに学んだことを模擬試験で出題する。
到達目標	国家試験に合格できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	これまでに学んだことを自己学習する。
使用教材	
留意点 備 考	

成績評価	
------	--

回	授業計画【テーマ・内容・目標】	
1	模擬試験	第1回模擬試験
2	模擬試験	第1回模擬試験
3	模擬試験	第2回模擬試験
4	模擬試験	第2回模擬試験
5	模擬試験	第3回模擬試験
6	模擬試験	第3回模擬試験
7	模擬試験	第4回模擬試験
8	模擬試験	第4回模擬試験
9	模擬試験	第5回模擬試験
10	模擬試験	第5回模擬試験
11	模擬試験	第6回模擬試験A
12	模擬試験	第6回模擬試験A
13	模擬試験	第6回模擬試験BCD
14	模擬試験	第6回模擬試験BCD
15		